

編集後記

この新しい雑誌を出して行こうとする意図は、白石部長の述べられているとおりです。今回の呼びかけに応じて多くの方に執筆を約束していただき、おかげで第1号の発刊にこぎつけました。

西口、金丸両君はなかなか読みごたえのある力作を寄せられ、高橋君は新しい資料の存在を教えてくださいました。

谷君は県外研修の成果報告をかねて前論の訂正を行いました。もとより、これからも力のこもった論文が寄せられることを期待するものですが、このような、短報でありながらそれなりに重要な情報も、どしどしお寄せ願いたいと思います。こうした記事を発表できるのも本誌ならではの、と思われまます。

誰でも、一個のまとまった論文にする程のことではなくても、それなりに重要な知見や思索の結果は、いくつもあたためているのではないのでしょうか。かつて執筆した報告書の記述に関する訂正や補足、若干の考察の付加なども、以前は発表の途がありませんでした。こうした文章も、これからどしどしお寄せ願いたいと思います。或は、日常の調査研究活動における新しい試みの紹介、また疑問の提示やそれに対する回答なども重要な情報を提供してくれることになるでしょう。皆さんの御支持と、創意の結集をお願いします。

今回の編集にあたっては、本誌の趣旨を考え寄稿者個々の用語法、カナ使いなど、まったく統一せず、寄せられたままの文章を掲載するようにしました。今後もこの方針で行きたいと思います。

本誌の体裁は当面、今号の様式で進めたいと思います。B5判で、版面は140mm×220mmにとりました。挿図の組み方を、これにあわせて行って下さい。文字は12級で22字×44行2段、文字だけだと1頁に400字詰原稿用紙に5枚弱入ります。

本誌の誌名は、適当な名称が思いつかず、仮題の『研究連絡誌』のままで出発します。本誌の刊行が軌道にのり、進むべき方向も定まった時に、実態に相応した誌名がつけられることを期待します。
(沼沢)

研究連絡誌 第1号

昭和57年10月30日 発行

発 行 者 財団法人 千葉県文化財センター
千葉市亥鼻1丁目3番13号
電話 千葉 (0472)25-6478

印 刷 所 有限会社 正文社
千葉市都町2丁目5番5号
